2021青年アグリフォーラムin十勝を通じた多様な担い手の育成

～２年ぶりの開催に尽力した青年・普及・行政による実行委員会～

十勝農業改良普及センター広域　担い手

１　活動対象及び概要

コロナ禍において２年ぶりとなる「青年アグリフォーラムin十勝」の開催に伴い、実行委員の一員として活動した。支援する普及センター・十勝総合振興局農務課農業経営係の若手担当者が「青年アグリフォーラムin十勝の成功」のイメージを共有し、青年実行委員と共に責任を持って取り組んだ結果、満足度の高いフォーラムの開催となった。

２　背景・ねらい

コロナ前まで毎年開催されていた「青年アグリフォーラムin十勝」ではあるが･･･

・参加者数、発表数の減少と特定地域への偏り
・実行委員が選出できない地域がある

⇨**「成功した」とは言えない状況が続いている**

３　活動の経過

青年との実行委員会前に、担当普及員と農業経営係の担当職員で「事前検討会」を実施し、地域の現状と担当者の思う「アグリフォーラムin十勝の成功」について意見交換を行った。

地域の現状
・意欲がある人はいるが、発表まではなかなか行かない
・自分の担当地区では、交流だけのためには来てくれない
・グループワークは満足度が高かった。他の人の経営を知りたいという声は大きい。
・普及員としては、色々な人のやり方を知って欲しいと思っている。
・交流よりも実践で活かせる技術を学びたいと思っている青年が多い。
・既存グループ生の参加・発表が当たり前になっており、上に行きたいという意欲がない。

来年も参加したいと思ってもらえる(アンケート結果)	青年の参加人数50人	プロジェクトの発表が増える
アグリフォーラムの認知度を上げる	アグリフォーラムin十勝の成功	青年にとって得るものがあった
アグリフォーラム開催後に話題になる	全支所から青年実行委員が出る	実行委員が「成功した」と言う

プロジェクト・メッセージの発表数を増やす＝応援者を増やす	知名度を上げる	現地活動の中で誘う
仲の良い農業者同士一緒に誘う	青年の参加人数50人	開催時間帯の変更
スケジュール変更	詳しい内容を知らせる	ターゲットとする年齢を幅広く

アグリフォーラムin十勝の成功の状態(左）と、その状態にするために具体的に何をするか(右)
※「マンダラチャート」と呼ばれる手法にて意見を整理した。

実行委員会では、より多くの参加者を集めるため、開催時間の変更や周知のためのSNS活用(Twitter)が決定した。また、交流を求めないという声はあるものの、青年実行委員からは交流プログラム（グループトーク）の希望が強かった。SNS投稿文の確認等、実行委員会以外の連絡と意思決定にはグループLINEを活用した。

４　活動の成果

(1) 数値目標に対する結果

参加者には研修生や従業員を含む。参加者は増加し、地域の偏りは少なくなった。発表数には、課題が残る結果となった。

実行委員選出：５つの本・支所より７名が選出
参加者数：青年農業者で44名、学校関係で24名
地域：管内外より13市町村
発表数：選考対象で3課題、選考対象外で1課題

写真　グループトークの様子

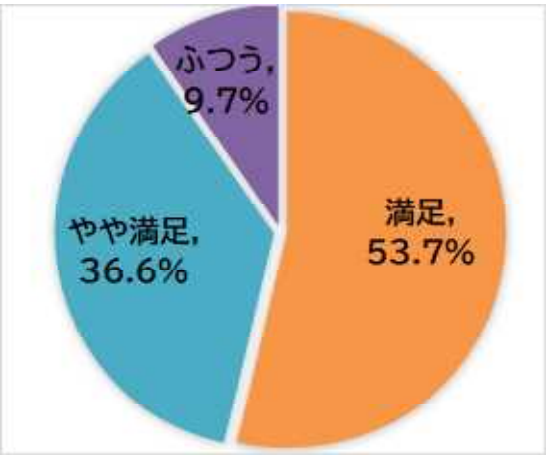

図１　グループトーク対する満足度

(2) SNSの活用

青年と普及の実行委員が一緒にTwitterの投稿文を考え、情報発信を行った。

(3) 交流の満足度

テーマを事前に実行委員会で検討し、例年より時間を延長したグループトークに対する満足度は高かった（図１，不満・やや不満は０％）。

(4) 感想

下表の感想の通り、それぞれに得るものがあったと考えられる。実行委員の反省会では、運営に関して良かった点と改善点が挙げられた。

区分	感想等
青年実行委員	（実行委員を）やって良かった。色々な考えの人がいて面白かった。
	グループトークはあれくらいの時間があって良かった。
普及実行委員	青年も普及もそれぞれが責任を持って仕事に取り組めた。
	実行委員自ら、よりよいプログラムにしようと意見を出し合えた。
発表者	改めて自分の活動の良い点も悪い点も知ることができた。
参加者	交流会は、別日で話しても良いくらい楽しくお話できました。
	農業経営に関して視野が広がりとても良い経験になりました。今後生かして成長できるようにしていきたいと思います。

５　今後の対応

今後も実行委員会で意見を出し合い、状況に応じて改善を重ねながら、青年アグリフォーラムin十勝の成功に向けた活動を行う。